

◆祝賀会

記念式典に引き続き、祝賀会が開催されました。

祝賀会は、当日朝に発生した大阪北部地震に対する関係者の対応などを踏まえ、当初予定していた式次第の変更を行うとともに、祝賀会出席者からの心配の声などもあり、お祝いムードではなく全体的には厳粛な雰囲気の中での会となりました。

小野会長からの開会あいさつの後、乾杯をし、懇談に入りました。

懇談は、地震による交通事情の影響から遅れて出席された行政相談委員もあり、地震の状況などの外、出席者それぞれが、これまでの行政相談委員活動の苦労話、地域における委員活動の模様、情報の交換等ややかな雰囲気の中、記念すべき時間を共有することとなりました。

また、松本専務理事からは、閉会のあいさつとして、「今年度発行の4冊の季刊行政相談はすべて全相協50周年記念特集号とし、その表紙は現職の4人の行政相談委員の方々に揮毫していただくことにしました。「聴」、「鳳」、「縁」、「絆」の4文字をお選びいただきましたが、時間が経つにつれ、その意義深さに感じ入っております。

「縁」あつて行政相談委員となり全相協の50年の節目に立ち会い、全国5千人の行政相談委員との「絆」を大切にしつつ、行政相談委員として地域住民や相談者の声をよく「聴」き、行政相談委員制度のすばらしさが日本中にさらには世界中に「鳳」のごとく飛ばたいいくように、全相協は全力を挙げて委員の皆様の活動を支援していく所存です。」との決意が述べられました。

なお、当初の祝賀会の次第では、設立50周年の祝いと今後の決意を込めて「鏡開き」を予定しておりましたが、大阪北部で発生した地震により被災された方々もおられることを考慮し、実施を見合わせることにしました。

